

令和4年度公文書管理に関する市町村職員等研修会

学校資料を残すためにできること

—自治体・学校・地域の役割—

高知県の学校資料を考える会

代表 目良裕昭

学校資料とは

- ①学校で作成・收受された文書類（行政文書、学校日誌、おたより、文集等）、写真や記録映像
- ②学校で使用された教材教具や設備備品、所蔵する民具や考古資料等



○学校や地域の歴史・文化を物語る資料であり、教材としても活用できることから、近年、注目されるように
 ○全国各地で保存や活用に関する取組や研究が進む

「学校資料」が注目されるようになった社会的背景と今後の動向

- 人々の成長過程において大きな役割を果たし、地域の中心でもある学校の資料は、**歴史的・社会的に重要な意味と価値をもつ**
- しかし、人口減少や教育システムの変化などにより、**散逸や消失が加速度的に進行**

① 高知県内で進む「学校資料」保存と活用の動き（土佐清水市の事例）

①資料レスキュー



休廃校の資料を救う

土佐清水市教委・考える会・高知城博・こうちミュージアムネットが連携

土佐清水市旧大津小学校

②資料調査・整理



旧中浜小学校へ移管

目録リストの作成

③資料活用や学校博物館の取組

多様な地域資料を廃校舎に集め、博物館に



民具・考古資料・学校資料・標本

土佐清水市教委の構想

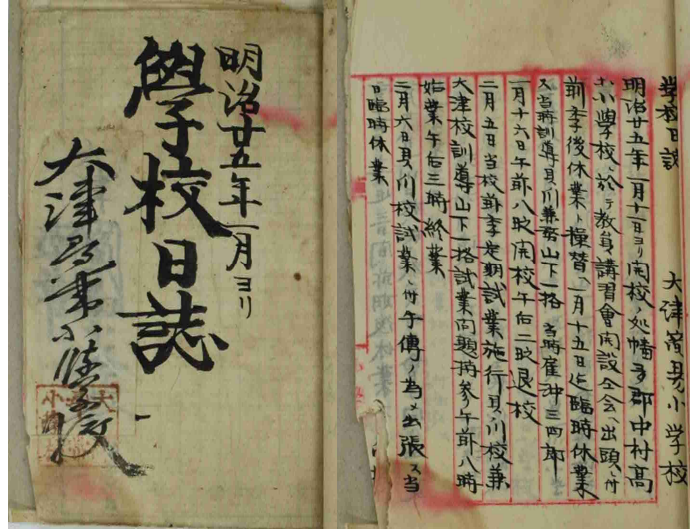


② 高知県内に残る学校資料の事例

地域史・教育史の実態語る資料群

土佐清水市 旧大津小学校

明治25年（1892）以降の学校日誌約80冊



昭和期の学校運営語る資料群 数千点



越知町 旧片岡小学校

公民館と博物館が連携

公民館活動の一環として、標本の作製や博物館資料を使った学習活動を展開できるように整備が進められる

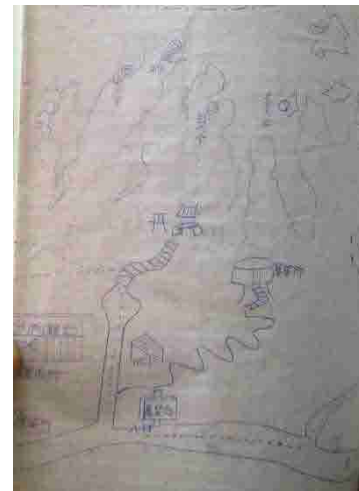
整備の過程で高知城歴史博物館が学校に残る資料を調査



校舎新築時の公文書 (昭和31年度)

昭和の大合併により明治村(片岡含む)が越知町に編入された。資料の謝辞には、町村合併後の第1番目の校舎新築である旨が記される。

地域観光の記録



『昭和43年叶崎保勝会記録綴』


地域の生き物



昭和20年5月10日の学校日誌には、「(敵機多数上空巡回す)授業出来得ず」とある。丸括弧部分は黒塗。

事	記	小	中	高	計	年	月	日	時	分	秒
...	昭和20年	5月	10日

「高知県の学校資料を考える会」の目標

- 
- A) 学校資料の保存活用の啓発
 - B) 学校資料の実態把握
 - C) 学校資料を守るモデルづくり
 - D) 学校資料を守る体制整備

keyword

「資料保存」

「現場支援」

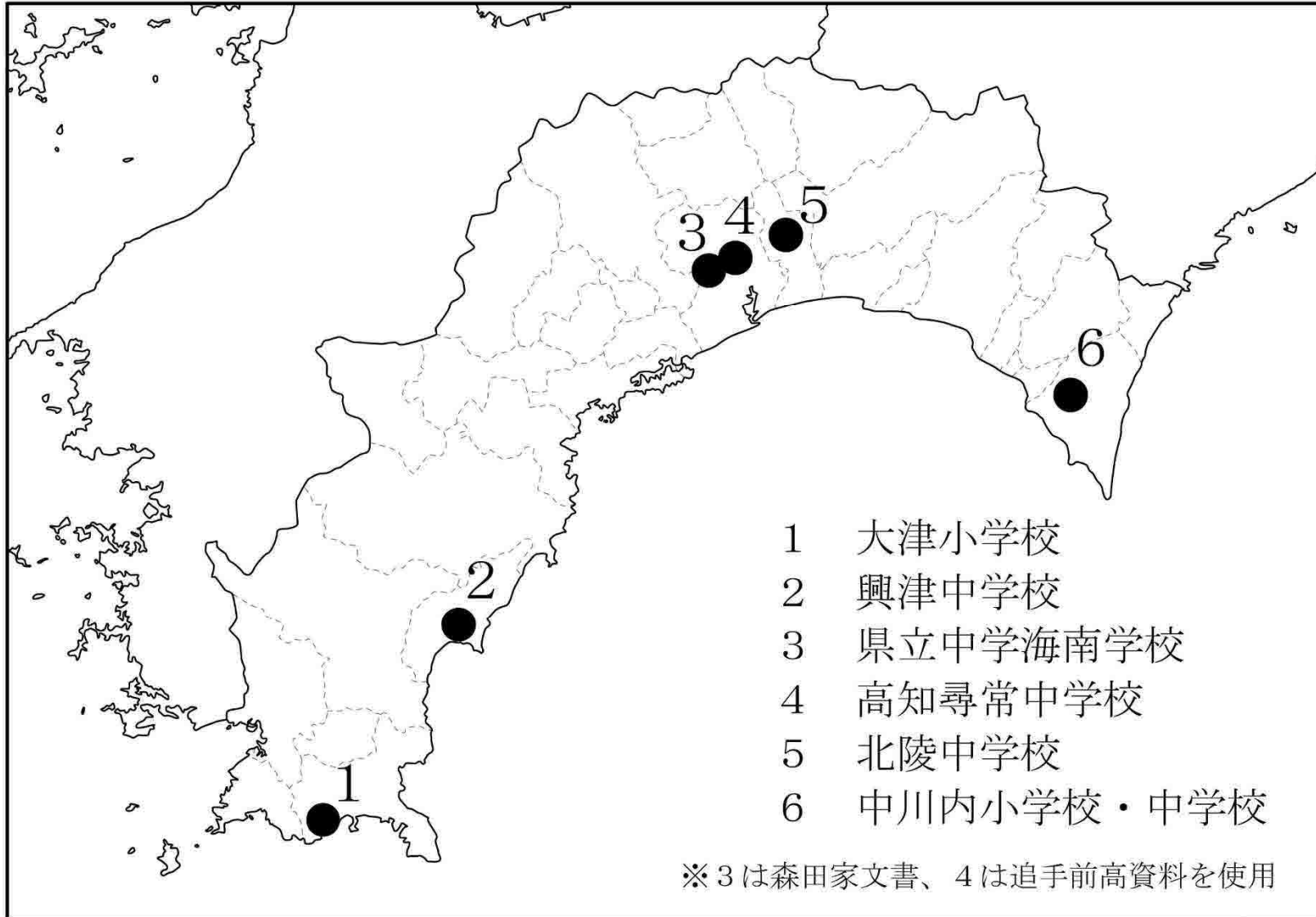
「現場運用との関係」

「現場・地域の参画」

考える会の3年間のおもな活動

- 2019年 8月 考える会の結成
12月 シンポジウム「高知県の学校資料を考える」開催 (A)
- 2020年 6月 土佐清水市旧大津小学校資料の救済と整理・保存調査開始 (B～D)
7月 南国市北陵中学校寄託資料の調査協力 (B)
8月 シンポジウム「高知県の学校資料を考える」記録集の発行 (A)
11月 高知県市町村教育長会議で「学校資料の保存と活用について」説明 (A)
こうちミュージアムネットワーク入会 (A・D)
12月 室戸市中川内小中学校資料の調査開始 (B)
- 2021年 2月 土佐清水市でパネル「大津小学校資料の調査速報」の展示 (A・C)
10月 学校資料集『学校資料を残す・伝える』の発行 (A～D)
- 2022年 1月 「中川内の日」行事協力 (学校資料等を使ったパネル作成) (A・C)
7月～ 土佐清水市史資料編 (学校資料) 調査・執筆協力 (A～D)

考える会が関わった高知県内の学校資料



シンポジウム「高知県の学校資料を考える」 (2019年12月7日)

◇高知県の学校資料の現状に対する問題提起を目的に開催
(当時の状況)

- ・ 学校資料の管理・保存体制に課題
- ・ 2020年4月には県立公文書館の開館が迫る

(テーマ)

- ・ 学校現場における資料の評価・選別・保存・活用
の問題
- ・ 公文書館の役割や重要性 etc



シンポジウム「高知県の学校資料を考える」

(2019年12月7日)

シンポジウムで出された意見

- 学校資料の保存と活用について学校関係者や関係機関の意見も反映できる仕組みづくりを
- 市町村に学校資料等々を保存する公文書館が必要
- 県立公文書館に専門職員の配置が必要
- 県立公文書館は市町村の支援をすべき

etc

人的配置や行政的なシステム検討の必要性、
収蔵スペースの不足などが今後の課題とされた



シンポジウム「高知県の学校資料を考える」 (2019年12月7日)

シンポジウム前後の動き

- ・ シンポジウムに先立ち、地元紙の高知新聞が「学校資料どう残す」の特集記事（連続5回）を掲載
- ・ 『シンポジウム記録集』の発行



2019年12月2・5日高知新聞

その他の啓発・普及活動

こうちミュージアムネットワーク（MN）への入会と協力要請

- ・ こうちMNにシンポジウムの開催や高知県市町村教育長会議での説明に際して協力を仰ぐ
 - ⇒ こうちMN会員の博物館等に学校資料保存を啓発

学校資料を活用した地域での展示、地域史研究

○地域での展示

- ・ 土佐清水市でパネル「大津小学校資料の調査速報」展示
- ・ 室戸市「中川内の日」行事協力

○地域史研究

- ・ 「学校資料による地域史の復元」（『よど』22号）投稿
- ・ 土佐清水市史資料編（学校資料）調査・執筆協力

その他の啓発・普及活動

そして某年某日 ④
土佐清水市 旧大津小学校
1993年3月24日

◆生徒3人 涙の休校◆

最後の校長 資料残す





調査までの経緯

遺族高齢化と少子化が進む高知県では、公立小中学校の統合が相次いでいます。2014年からの6年間で18校の小中学校が閉校・廃校となり、現行の学制が継がれた1947年以降では分校などを含み、計330校が姿を消したとされています。こうした中、地域の学校で使われ、

残された様々な資料（教科資料）が近年、地域を語る歴史資料として全国的に注目を集めています。高知県の学校資料を考える会（以下考会）はこうした動きを受け、「高知県でも学校資料保存の活動を」と2019年8月に立ち上げた団体です。

考える会は同年12月、「こうちミュージアム ネットワーク」以下「こうちネット」と共催で、シンポジウム「高知県の学校資料を考える」を高知県立高知城歴史博物館（以下城博）で開催し、学校資料の重要性を提唱しました。高知県の学校資料を考える会2020（シンポジウム「高知県の学校資料を考える」記録集）を参照。四万十町地名辞典のHPから全文PDFが閲覧できます。

シンポジウム後、学制発布150年の2022年度に学校資料保存を計画する城博、考える会、こうちネットは、学校資料に関心を寄せていた土佐清水市教育委員会（以下市教委）と連携して、2020年6月から資料保存の活動を始めました。対象となったのは明治以来の学校日誌の残存が確認されていた旧大津小学校の資料群です。

大津小は1993年に休校、2004年に廃校となり、学校日誌の他に多くの資料が残されていました。木造の旧校舎は劣化しており、資料の取出、別置が必要でした。2020年6月、市教委と城博、考える会など計16人で旧校舎内に置かれた資料類の搬出（資料救済）を行いました。搬出の際には、資料の所在場所を記録し、所在場所ごとにゲンゴロウに入れて運び出しました。

大津小はいずれ再開が想定されており、開校時にはほとんどの資料を戻すこととなく、そのままの状態に配置していたようです。その結果、平成初期の小学校に明治・大正・昭和と引き継がれていた学校資料がどのような形で残存していたかという実態が把握できる状況でした。

資料は天津小資料と命名し、田中道小へ移管。市教委と土佐清水市郷土史同好会と協力し、2020年7月（計1）、同年8月（計20）、同年11月（計15）の計3回調査を実施しています。調査では、所在場所ごとの資料が入ったゲンゴロウをナンバリングした後、資料日誌の作成や重要資料類の撮影を進めています。

この調査には、各博物館学芸員や高知大学の教員、学生、振興文化大学の大学院生も参加しました。この規模の歴史資料の調査は、筆者も大学院時代以来、実地での資料出や開架の保存処理、整理、目録作成など、勉強になる点が多々ありました。また、2020年11月の調査には、高知大学教育学部で歴史を学び、方針教員として学校現場に出る学生も参加しました。昭

すなわち、資料は約4千点にのぼり、全国的にも例をみない、学校資料の全体像が分かる稀有で貴重な資料群であることが確認できました。

県内では学校資料の調査が盛んではとんざ行われていない現状を踏まえ、今後の調査研究のモデルとなる資料と考えました。また、展示等での活用も考慮し、積極的な資料活用は行わず、モノ・紙質を含めて資料群の良しものは繰り返し展示にあり、学校博物館としての活用が検討されています。旧大津小学校に別荘が建てられ、一時的な展示、展示資料などの保存対策をした上で、今後調査を行い、調査研究を活用を模索することになりました。

大津小資料の調査

資料は天津小資料と命名し、田中道小へ移管。市教委と土佐清水市郷土史同好会と協力し、2020年7月（計1）、同年8月（計20）、同年11月（計15）の計3回調査を実施しています。調査では、所在場所ごとの資料が入ったゲンゴロウをナンバリングした後、資料日誌の作成や重要資料類の撮影を進めています。

この調査には、各博物館学芸員や高知大学の教員、学生、振興文化大学の大学院生も参加しました。この規模の歴史資料の調査は、筆者も大学院時代以来、実地での資料出や開架の保存処理、整理、目録作成など、勉強になる点が多々ありました。また、2020年11月の調査には、高知大学教育学部で歴史を学び、方針教員として学校現場に出る学生も参加しました。昭

特集

土佐清水市旧大津小学校の資料救済と調査

調査までの経緯



遺族高齢化と少子化が進む高知県では、公立小中学校の統合が相次いでいます。2014年からの6年間で18校の小中学校が閉校・廃校となり、現行の学制が継がれた1947年以降では分校などを含み、計330校が姿を消したとされています。こうした中、地域の学校で使われ、

残された様々な資料（教科資料）が近年、地域を語る歴史資料として全国的に注目を集めています。高知県の学校資料を考える会（以下考会）はこうした動きを受け、「高知県でも学校資料保存の活動を」と2019年8月に立ち上げた団体です。

考える会は同年12月、「こうちミュージアム ネットワーク」以下「こうちネット」と共催で、シンポジウム「高知県の学校資料を考える」を高知県立高知城歴史博物館（以下城博）で開催し、学校資料の重要性を提唱しました。高知県の学校資料を考える会2020（シンポジウム「高知県の学校資料を考える」記録集）を参照。四万十町地名辞典のHPから全文PDFが閲覧できます。

シンポジウム後、学制発布150年の2022年度に学校資料保存を計画する城博、考える会、こうちネットは、学校資料に関心を寄せていた土佐清水市教育委員会（以下市教委）と連携して、2020年6月から資料保存の活動を始めました。対象となったのは明治以来の学校日誌の残存が確認されていた旧大津小学校の資料群です。

大津小は1993年に休校、2004年に廃校となり、学校日誌の他に多くの資料が残されていました。木造の旧校舎は劣化しており、資料の取出、別置が必要でした。2020年6月、市教委と城博、考える会など計16人で旧校舎内に置かれた資料類の搬出（資料救済）を行いました。搬出の際には、資料の所在場所を記録し、所在場所ごとにゲンゴロウに入れて運び出しました。

大津小はいずれ再開が想定されており、開校時にはほとんどの資料を戻すこととなく、そのままの状態に配置していたようです。その結果、平成初期の小学校に明治・大正・昭和と引き継がれていた学校資料がどのような形で残存していたかという実態が把握できる状況でした。

資料は天津小資料と命名し、田中道小へ移管。市教委と土佐清水市郷土史同好会と協力し、2020年7月（計1）、同年8月（計20）、同年11月（計15）の計3回調査を実施しています。調査では、所在場所ごとの資料が入ったゲンゴロウをナンバリングした後、資料日誌の作成や重要資料類の撮影を進めています。

この調査には、各博物館学芸員や高知大学の教員、学生、振興文化大学の大学院生も参加しました。この規模の歴史資料の調査は、筆者も大学院時代以来、実地での資料出や開架の保存処理、整理、目録作成など、勉強になる点が多々ありました。また、2020年11月の調査には、高知大学教育学部で歴史を学び、方針教員として学校現場に出る学生も参加しました。昭

すなわち、資料は約4千点にのぼり、全国的にも例をみない、学校資料の全体像が分かる稀有で貴重な資料群であることが確認できました。

県内では学校資料の調査が盛んではとんざ行われていない現状を踏まえ、今後の調査研究のモデルとなる資料と考えました。また、展示等での活用も考慮し、積極的な資料活用は行わず、モノ・紙質を含めて資料群の良しものは繰り返し展示にあり、学校博物館としての活用が検討されています。旧大津小学校に別荘が建てられ、一時的な展示、展示資料などの保存対策をした上で、今後調査を行い、調査研究を活用を模索することになりました。

大津小資料の調査

資料は天津小資料と命名し、田中道小へ移管。市教委と土佐清水市郷土史同好会と協力し、2020年7月（計1）、同年8月（計20）、同年11月（計15）の計3回調査を実施しています。調査では、所在場所ごとの資料が入ったゲンゴロウをナンバリングした後、資料日誌の作成や重要資料類の撮影を進めています。

この調査には、各博物館学芸員や高知大学の教員、学生、振興文化大学の大学院生も参加しました。この規模の歴史資料の調査は、筆者も大学院時代以来、実地での資料出や開架の保存処理、整理、目録作成など、勉強になる点が多々ありました。また、2020年11月の調査には、高知大学教育学部で歴史を学び、方針教員として学校現場に出る学生も参加しました。昭

このうちミュージアムネットワーク事務局 4

学校資料の救済と調査保存支援



土佐清水市大津



大津小学校舎入口
(2020年6月撮影)



校舎入口の校章飾り



運動場

土佐清水市立大津小学校

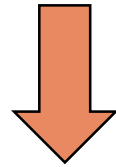
1993 (平成5) 年 休校
2004 (平成16) 年 閉校

学校資料の救済と調査保存支援

旧大津小学校資料の調査支援に至る経緯

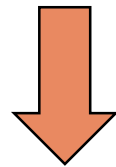
大津小に多数の資料が残っている状況を知る

(2019年末)



土佐清水市・市史編さん室長に相談

支援決定



第1回調査 (2020年6月)

市教委事務局と会合

- ・教育長自ら、全面的
バックアップを約束



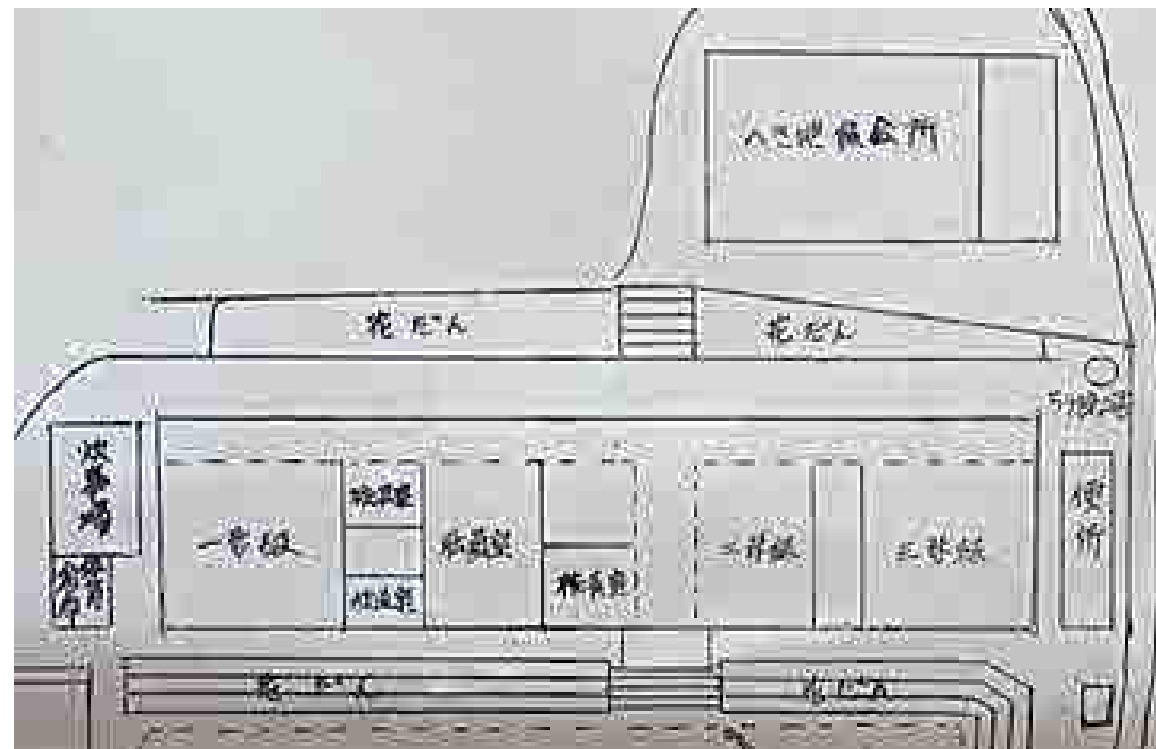
会合の様子

大津小学校資料の救済（2020年6月12・13日）

6月12日午後、大津小校舎に入り、資料救済を開始



運動場で打ち合わせ



教室配置図（上が北）

大津小学校資料の救済 (2020年6月12・13日)



校舎内から見た正面玄関



教室前廊下

大津小学校資料の救済 (2020年6月12・13日)



職員室 (廊下側)

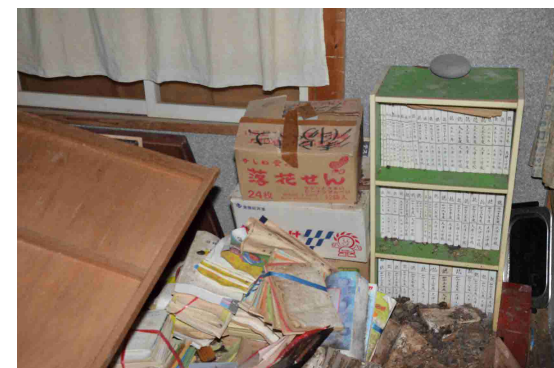


職員室 (校長室側)

大津小学校資料の救済 (2020年6月12・13日)



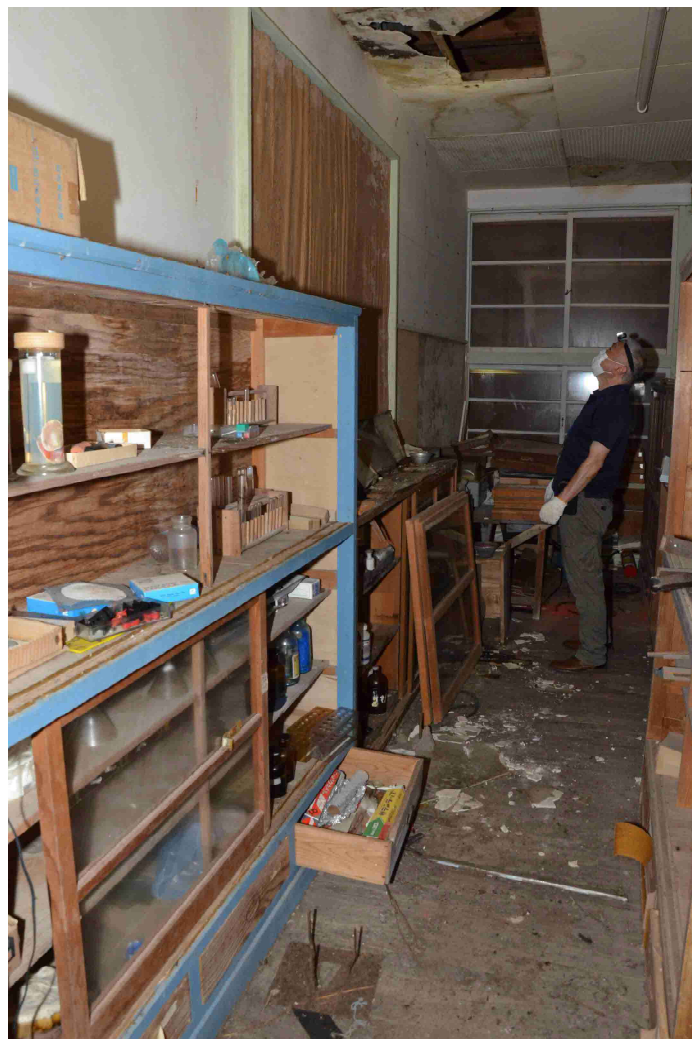
校長室の書棚



休憩室 (校長室の北)



大津小学校資料の救済 (2020年6月12・13日)



理科準備室



液浸標本群

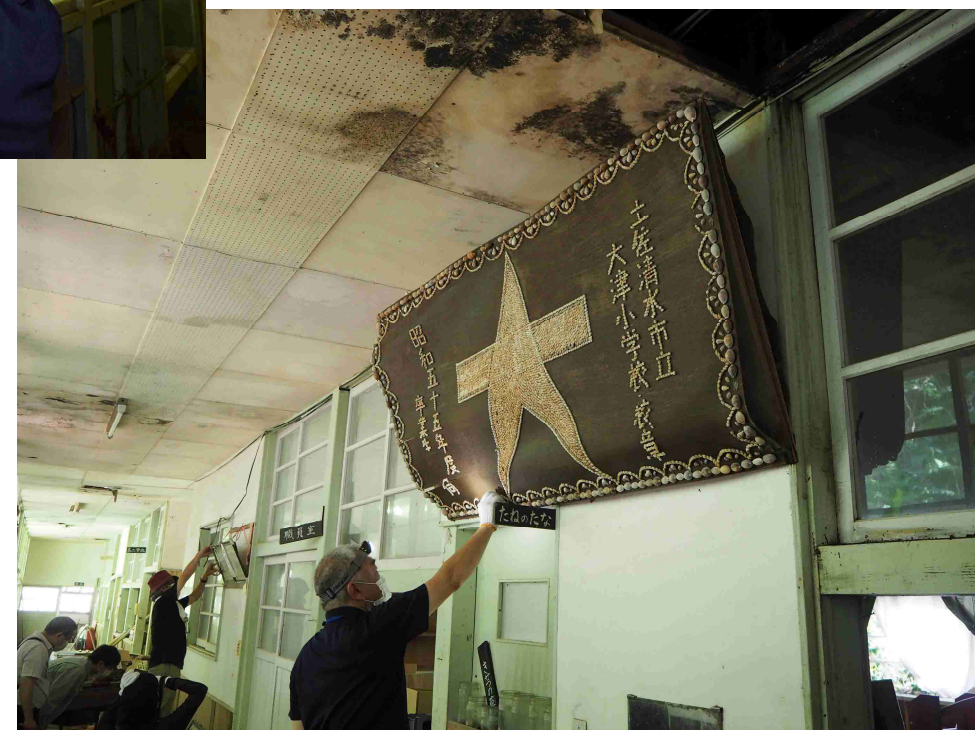
大津小学校資料の救済（2020年6月12・13日）



校長室壁面



廊下壁面



大津小学校資料の救済（2020年6月12・13日）

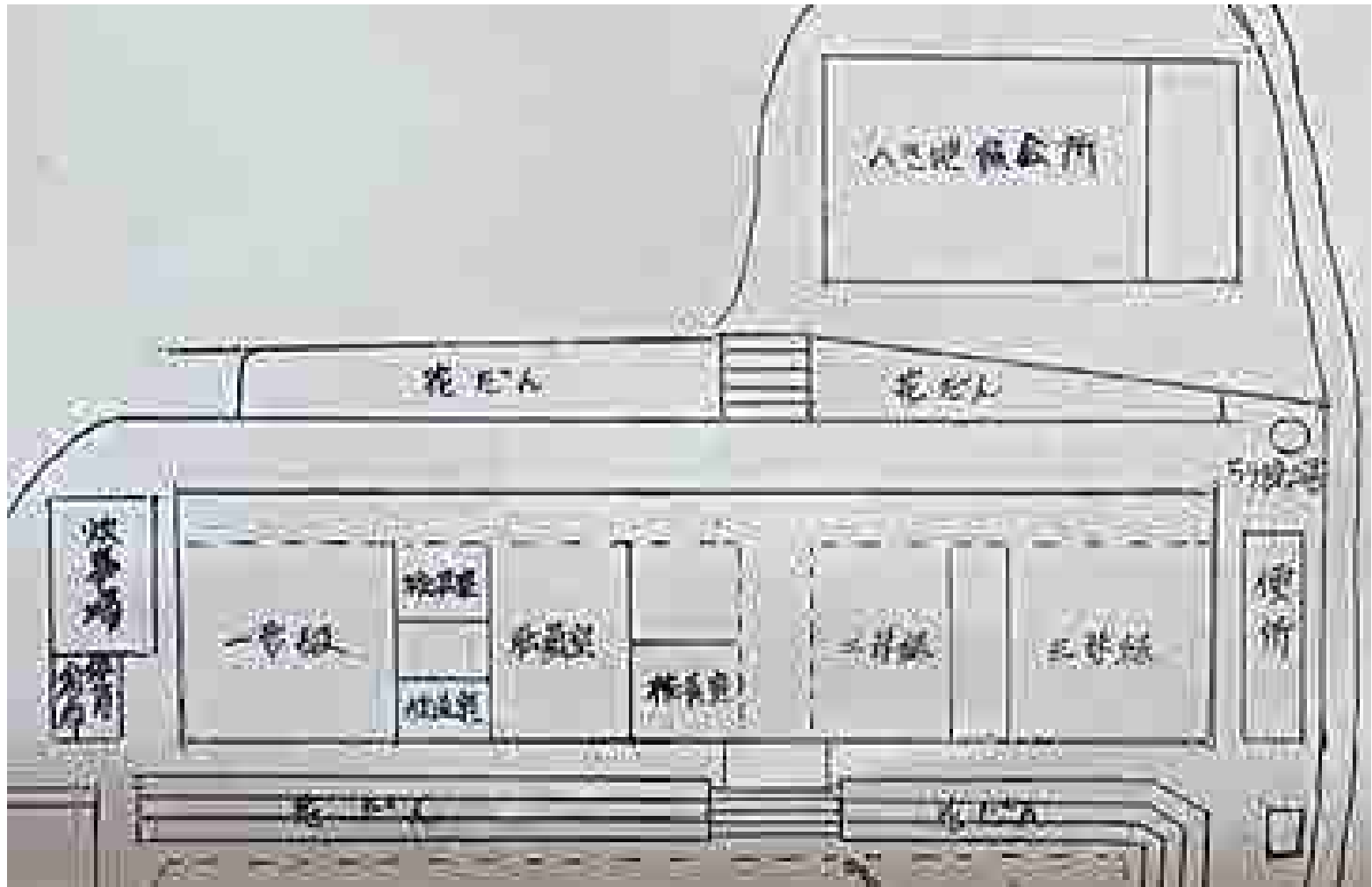


旧中浜小学校に運搬した救済資料



薄葉紙で覆う

大津小学校 救済資料の概要



大津小学校平面図

部屋名	点数	割合
職員室	864	20.2%
校長室	1712	40.0%
休養室	223	5.2%
保健室	320	7.5%
放送室	5	0.1%
校具室	53	1.2%
理科準備室	364	8.5%
用具室	416	9.7%
一学級	1	0.0%
二学級	0	0.0%
三学級	0	0.0%
玄関・廊下	204	4.8%
不明	121	2.8%
合計	4283	

場所と資料点数

大津小学校 救済資料の概要

公文書、プリント類

昭和30～50年代が中心で、特に50年代が多い

- ・ 学校運営、研究紀要・集録等、保健関係、児童文集、教職員（人事・服務）等
- ・ 学校日誌は明治30年代から残る
- ・ 小学校のほか、PTA、大津保育園、校友会、叶崎保勝会などの関連文書を含む

收受文書

- ・ 土佐清水市校長会、土佐清水市教育研究所等

書籍類

- ・ 一般図書、指導書・教科書、副読本、教職員組合関連等

モノ資料

- ・ 生物標本（大津海岸採集）、掛図、児童作品等

大津小学校資料調査の日程

2020年7月18日 1次整理のための予備調査

箱番号の付与、箱内の資料点数を確認、資料の大まかな分類
を行い、簡易目録作成

8月10・11日 1次整理①、クリーニング

資料の詳細目録作成、学校日誌（55/90冊）撮影

11月20・21日 1次整理②、クリーニング

資料の詳細目録作成、学校日誌（35/90冊）及び重要資料撮影

2021年3月20・21日 1次整理③

資料の詳細目録作成、資料保存処理

※8・11・3月の作業で図書類を除く約2,000点の詳細目録を作成

6月5日 追加整理

重要資料撮影、資料保存処理

⇒今後も継続予定

1次整理の様子（2020年7月～）



資料目録作成（P C入力）

資料撮影



学校資料集の発行 (2021年10月)

School Archives

学校資料を
残す・伝える
- 小中学校・高校に残る地域資料の世界 -



高知県の学校資料を考える会報

● 管理規程との関係 ●

文集は児童生徒の学習活動の成果物であるが、文書管理規程では規定されない。しかし、慣例として毎年制作している学校も多く、校長室や図書室などに過去の文集が保存されている例はよくある。

補導

これが非行の前兆だ!!

『少年補導関係(昭和53年度)』(大津小資料)



1970年代末期から1980年代、一冊

学校OB

上岡龍太郎の父と大津

『小林為太郎・国書寄贈の手紙』(大津小資料)



不良
判り
てる
いる
。外
れ

京都で活躍した人権啓発士・小林為太郎(クレント・上岡龍太郎の父)が、昭和40年代に母校大津小に寄贈したダンボール2箱の書籍に同封されていた手紙である。同僚の権本房壽士に書簡の郵送を依頼した、それが受からず甲府までの送料しかなく、大津小校長に一旦学校で送料を立替てもらえば、後でそれを返金すると記している。多岐な中を走り回っており、日々の生活の中に放浪・大津が原点としてあったことを裏付ける資料である。

資料のツボ!

為太郎は大津小を大正9年(1920)に卒業し、善学して京都府で人権啓発士として活躍した著名なOB。故郷・大津をこよなく愛し、彼の心の拠り所であった、大阪大津市梅会の相談役として弁護士活動の傍ら同窓会活動にも熱心だった。昭和41年(1966)から5年間毎年のように児童図書を寄贈し、その数は700冊余りに達した。小規模校の大津小の蔵書数が多いのはこのためである。学校では『小林文集』と名づけ、児童や教職員が日々活用し、教育環境を高め、その効果を醸成していった。為太郎は、遺骨の一部を大津・叶崎の街に教葬することを遺言とし、家族によりそれが実行された。どこまでも故郷を愛した人物であった。

● 管理規程との関係 ●

著名な卒業生や地域の支援者からの寄贈品や文庫に関する文書類は、管理規程に制約には規定されないが長期にわたり保存されることが多いと思われる。

試験問題

知識と論述力を試される

『明治参拾陸年試験問題用紙。(森田家文書)』



近中学南高等学校(現高知小南高校)2年級で明治36年(1903)3月に実施された試験の問題用紙。撮影、影写料、文芸

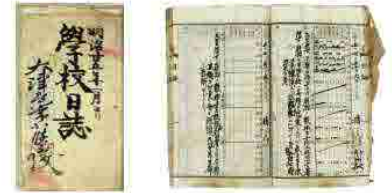
代敷、日本文、地

明治七年大津試験了。現在の高校の中

学校日記

国家と地域を語る

『大津小学校学校日記』(大津小資料)



には、明治25年(1892)~昭和60年(1985)の約90年の日記が残る。その内容は、現在の日記に比して著かに詳細的である。例えば、明治44年度日記には、記載すべき事項として、月日、発案、教師・児童出席、児童健康、儀式、休業(休講)任令、退学、学級編成、接待、修業などが明記され、明に業者の修繕や来校者の報告、更には自作の短歌が記されるなどかなもみで、資料集・読み物としても読めることがない。

資料のツボ!

明治後期の日記をみると、明治40年頃から版記に関する記述が増加する。同43年、校内に『児童風俗協議会』が設けられ、女子の服装衛生指導が開始、『方言正誤比較表』が作成される。主に男子の共通語教育が推進されている。教室には「読書・奉行・進歩・自治・共同」の教訓五箇条が掲示。教員にも『小学校教員心得』が提示され、家庭訪問も始まった。戦前には、小学校舎(明治33年)に始まる教員児童・学校(尋常・高等)の増加をうけての義務教育6年制の導入(同40年)、『戊申招書』の発布(同41年)など、日露戦後の国民教化政策の足跡があった。土佐の西端にある小さな小学校の日記には、学校は勿論、地域、更には国家の歴史が記されている。

● 管理規程との関係 ●

学校日記は「総則(第2条)」に制定され、保存年数は3年又は5年。ただし、公立小中で伝統的・特色ある文庫システムの導入により電子上で作成することとなったため(2021年度)、管理文庫として制定しない自治体もある。記載内容も行名を書きつづけるのみで簡略化が進んでいる。

『学校資料を残す・伝える』の構成

第1章

学校資料って何だろう？



図1 本書で学校資料を紹介する学校

1
はじめに

近年、小中学校や高校で過去に使われた文書や教材、備品が、歴史や教育史の資料と認識されて、全国各地でシンポジウムが行われ³⁾、その保存や活用の取り組みが新聞などでも特集されて注目されています⁴⁾。

2019年7月、高知市内で開かれた30～40代の学芸員や学校事務職員の研究会で学校資料の話題が出て、「高知にはどんな学校資料があるだろう?」「高知でも学校資料を盛り起こしたいだね」などと盛り上がり、残念ながら、高知では学校資料の調査や研究は一部しか行われておらず、その価値はほとんど認識されていないのが現状でした。

本書は、学校資料に関心を持った私たちが、県内の資料保存の現状や課題を考え⁵⁾、各地の教育委員会や地域の人たちと協力して調査を行ってきた2年間の成果をまとめたものです。

学校資料の調査には約50人が参加しましたが、その中に学校資料の専門家は一人もいません。それぞれが持つ知識や体験、興味関心から、各々の視点で、広範囲で多様な高知県の学校資料の面白さや価値を考え、紹介しようと試みました。

学校資料に関わる方々に、まずは「学校資料って何だろう?」という所から興味を持って頂き、廃棄せずに整理保存して残れば、地域の記憶を伝える重要な歴史資料になるかもしれないと気付いてもらう、価値意識の「掘り起こし」⁶⁾のきっかけになればと本書を作成しました。自分たちが学んだ「学校」で使った文書や教材が、数十年経って地域を知る資料になる。そんな「小中学校・高校に残された地域資料の世界」をのぞいてみましょう。

第2章

高知県の学校資料集

第2章では、これまでに高知県の学校資料を考える会が中心となって調査した高知県の学校資料の中から53項目の資料を紹介し、さまざまなコトやモノが対象となり、多様な価値を持つ学校資料の面白さを、小中学校の教員・事務職員、学芸員、大学教員ら19人の多角的な目線で見起こしてみたいと思います。

資料集の見方



【凡例】

- 資料中の日字体や異体字は原則常用漢字などに改めた。
- 引用資料には、一部今日の観点から見て差別的と思われる表現があるが、資料性に鑑みそのままとしている。
- 掲載資料の中には、個人情報保護の観点から資料画像を掲載加工したものがあがる。

第3章

学校資料を残す・伝える

第2章で学校資料がもつ面白さと重要性、学校にとどまらない様々な側面を有する資料であることを紹介しました。第3章では、学校資料保存の現状を「残す・伝える」の視点で整理し、県内の学校での資料の記録や保管、活用の事例を紹介しします。

学校資料の残り方

閉校時の学校は、公文書や備品を整理して、統合先にそれらを移管するか、廃棄を迫られます。保存年限未経過の公文書や「学校の歴史」などの重要資料は、統合先に移管されることが基本です。また、備品などは、他の学校や同じ行政組織内で利用し、近隣住民に譲渡する場合もあり、利用できるものを引き継ぐということが行われています。

そして、保存年限が経過した本来であれば廃棄されているはずの公文書、この扱いが閉校時の学校資料における悩ましい問題になっています。明治期の公文書など、古い資料はなかなか必要という判断には至らないようですが、昭和・平成の公文書が閉校を機に廃棄されています。また、配布プリントや校舎内の掲示物など、これらも同時に廃棄されているという現状です（これらの中にも重要な資料があることは本書内で紹介しているのとおりです）。

廃棄自体が悪い訳ではなく、閉校まで様々な経緯や理由で残ってきたにもかかわらず、閉校時の忙しさとタイム

リットが迫るなかで、評価選別（資料の価値や重要性の判断）をせずに廃棄が行われていることが問題であると言えます。

地域の記憶を伝える重要な学校資料を守るには、アーカイブ機能を整備して、常日頃から組織的に資料を残さなければ残りません。アーカイブ機能が低いなかで、文書管理規程に則って正しい管理を行うと、保存年限が経過した公文書は廃棄されてしまいます（「残らない? 残せない? 学校資料」65頁参照）。

県内ではアーカイブ機能の整備は進んでいませんので、学校資料は、教員や教育委員会等、学校関係者が残そうとする意志がないと、捨てられてしまっているという現状なのです。

こうした現状のなか、本書で多く紹介している土佐清水市の大津小資料は休校後に再開が望まれていたため、学校資料がほぼそのままの状態で残されてきた稀有な事例と言えます。これまで、閉校時に資料相談を受けて、

『学校資料を残す・伝える』

発行の意図

【教職員ら教育関係者にむけて】

- ・ 資料紹介により、多様な内容をもつ学校資料の面白さと価値を知ってもらう
- ・ 学校資料の保存・活用に関する課題や実例を提示
⇒ 学校や地域で資料保存に向けた動きが高まる効果を期待

執筆者

- 小中学校教員・事務職員、大学教員、学芸員、新聞記者ら19人
- ・ 学校現場で日頃から学校資料に接している教職員、近代史や自然史の研究者といった多彩な執筆者が様々な視点から紹介
⇒ 執筆者は旧大津小学校資料の救済や整理調査にも協力

高知県内における学校資料保存や活用

ア) 高知追手前高校の展示

学校資料の活用

～空き教室やフリースペースなどを使って「ミニ学校博物館」に～



学校には様々なものが保管されています。意識的に残されたものもあれば、なんとなく残っているものもあるでしょう。それらは学校の歴史や社会の営みを物語るかけがえのない貴重な資料です。処分してしまうのはもったいないですね。たとえば空き教室やフリースペースなどを利用して、児童生徒や学校を訪れた方などが自由に鑑賞できるように展示してみてもはいかがでしょうか。

展示する資料は、学校の歴史や児童生徒の活動の痕跡が感じられるもの、地域の文化を伝えるものなどを選ぶと関心を持ってもらえると思います。また、平面的なもの（文書類）や立体的なもの（複製など）を織り混ぜると楽しいでしょう。展示品には、分かる範囲で結構ですので「資料の種類」「年代」「保管されていた場所」「資料の説明」など添えてみてください。一気に博物館らしく

なります。特別な展示空間がなくても、机や椅子、黒板などを使って学校らしい展示ができます。ただし、直射日光は避け、転倒防止には配慮してください。そして時々、展示品を変えてみてください。展示品選びから、資料の調査などを生徒と一緒に行うと良いかもしれません。すでに視目を終えていたこれらは、生きた教材として新しい学習の機会を生み出すことになるでしょう。



写真は、高知追手前高の学校資料の展示風景です。明治の開校以来、同校には多種多様な資料が残されてきました。これらの資料を生徒が日常的に見られるように、その一部を階段スペースを利用して展示しています。教頭、録や旗などの複製、明治時代の試験、実験教材など様々な展示品には、資料の年代や簡単な解説が添えられています。

（影山千夏）

イ) 中川内小中学校資料

部活動 地域に支えられた強豪校

「卓球部賞状」（中川内小中資料）

室戸市の中川内中卓球部は長年、高知県の卓球大会で個人や団体で優勝するなど、県内屈指の強豪校として活躍していた。その活躍には、卓球部顧問の指導だけでなく、部員の保護者や地域の人々の指導や協力によるところが大きかった。体育館には、大会で好成績を取った際の賞状とともに出場選手の集合写真が掲示され、校内にも大会の賞状が、部活中の写真や部を紹介した新聞記事とともに保管されている。

（上野貴一）

資料のツボ!

校内に保管・展示された部活動関係の賞状は約150点。最も古いものは昭和44年（1969）。室戸市内卓球大会で女子・男子の団体が3位に入った際の賞状である。地元紙「高知新聞」のスポーツ面に登場する同卓球部の記事は371件。昭和46年の県中学新人卓球での男子団体初優勝を皮切りに躍進し、昭和50年代には強豪校へ成長していく。その新拠は、新聞資料と賞状を対応させることで、より詳しく追うことができよう。また両部が長く地域の集会所（2004年から新設の体育館へ）で練習していたことから、部活動に対する地域の理解と協力が窺える。

● 管理規程との関係 ●

部活動関係の文庫は「2教務の教員」に分架され、保存年数は5年。練習計画や大会参加記録簿などが保存される。賞状の部は明確な規定がなく、賞状を受けた児童生徒の卒業や部活動の不振を契機に廃棄から廃棄。保存又は複製される。

ウ) 久礼小学校の民具調査



考える会による学校資料保存の支援

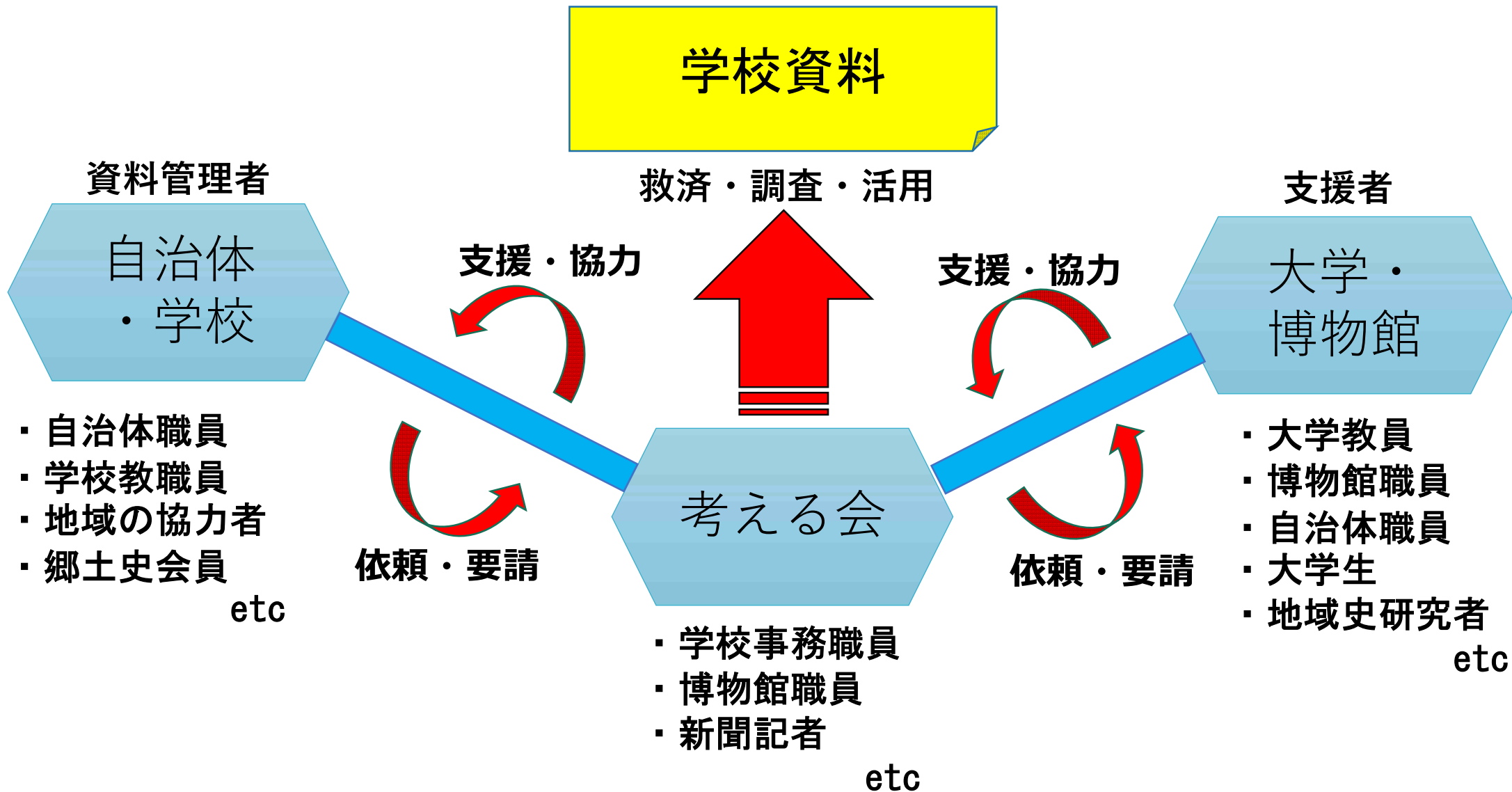
○成果

- ・考える会は有志で立ち上げた民間団体
 - ⇒要請次第で行政や学校の枠組に囚われずに支援が可能
 - 旧大津小資料（土佐清水市教委へ調査協力を打診）
 - 中川内小中資料（室戸市教委から調査依頼）
 - 北陵中所蔵資料（県立歴民館への寄託資料調査に協力）

●課題

- ・民間団体であるため、支援は限定的にならざるを得ない
 - ⇒資料の管理者（学校・関係機関）の考えに規定される
- ・ボランティア的活動であり、時間的財源的な制約がある
 - ⇒会員は本業を抱えて支援しており、集中的な活動は不可能
 - ⇒財源は自己資金のみ（研究助成金を獲得）
 - 要請や依頼による支援でも基本的に費用請求はしない

考える会をハブとしたネットワークの形成



今後の活動と学校資料保存

考える会の活動の基本



① 救済や調査保存の初動を支援する

⇒ 管理主体はあくまでも学校や自治体

② 考える会の関係者だけで活動しない

⇒ 支援先の教職員や自治体職員らとともに行う

考える会の支援は限定的

⇒ 学校や自治体、地域で継続的に保存・活用して
いく道筋をつける手伝い

今後の活動と学校資料保存

今後の活動

- ・ 高知県の学校資料保存・活用の相談窓口に
- ・ 資料保存活動の連携の軸に

ホームページの開設

- ・ 活動履歴、学校資料の紹介、刊行物PDF等の掲載
⇒ 運用を進め、資料保存の啓発と窓口機能の強化をはかる



目的

学校資料とは、学校に所蔵する資料を中心としたさまざまな歴史資料のことです。全国の学校資料の保存が図られつつありますが、高知県の保存の取り組みは遅く、2019年3月31日現在、約40万点の学校資料が廃棄されています。また、高知県では2019年4月1日現在、2000冊を超える数の教育書庫が廃棄されています。本協会では、学校資料の保存・活用活動の推進と、教育書庫の資料の活用・継承活動の推進を目的としています。

主な学校資料



高知県市町村教育長会議での説明

(2020年11月10日)

高知県教育長を訪問 (2020年9月)

- ・ 学校統廃合、全国一斉臨時休業時の片付けなど
⇒ 学校資料の処分や廃棄が進む現状を顧慮
- ・ こうちMN代表らと訪問し、保存と活用の問題を提起
⇒ 高知県市町村教育長会議での説明ができるよう、
時間を設定していただく

高知県市町村教育長会議

- ・ 県内で進む保存と活用の動き、調査保存された事例を紹介
⇒ 保存と活用に関し3つのお願いと2つの提案を行う



③ 高知県の「学校資料」 その保存と活用を図るために（お願い）

こうちミュージアムネットワーク・高知城歴史博物館・高知県の学校資料を考える会がお手伝いできること

① 「学校資料」は、重要な歴史資料 地域を語る地域資料

高知県 2018年には15歳未満人口が8万人を割り込む ⇒学校の統廃合が進み、散逸の危機に直面

文書管理規程の整備や個人情報保護の観点から、廃棄が促進される面も

いま、保存と活用に向けて手を打たなければ、貴重な「学校資料」が失われる

高知県の教育の基本理念にある「郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材」を育てるために、学校や地域の歴史を語ることができる「学校資料」について、保存と活用を図る体制の整備を検討していただきたい

② 「学校資料」の価値を広め、保存と活用を進めるために

2019年12月「高知県の学校資料を考える」シンポジウム ⇒県民が「学校資料」を価値を知る契機に

今後は、自治体や教育委員会、学校現場での動きを広げていきたい

自治体の担当者や学校関係者などの会合・研修の場で「学校資料」の保存と活用に関して、周知・説明する場を設けていただきたい

会合・研修の場に出向き、「学校資料」が有する多様な価値を説明し、保存と活用の具体例をお話しします



③ 高知県の「学校資料」 その保存と活用を図るために（お願い）

③ 「学校資料」を残すためには その手立て

膨大な「学校資料」をどのように残していくか ⇒選別・整理・活用の手立てが必要

選別

「香川県行政文書管理規程」「渋谷区立学校文書管理規程」
行政文書・学校文書の一部を「歴史資料」と位置づけ、永く保存する規程

県内の自治体に、学校や地域の文化・歴史に関わる「学校資料」を保存・活用する内容を盛り込んだ「学校文書管理規程」「学校備品管理規程」の案を提案します



整理

「学校歴史資料の目録と分類」「学校資料の収集・保存・活用」（和崎光太郎 浜松学院大学短期大学部准教授）
学校資料の保存・整理に長年関わってきた実践をもとに、考え方や方法を確立

自治体などの依頼を受け、「学校資料」の保存・整理に関するアドバイスをを行い、共同作業をつうじて保存活動の初動をお手伝いします

子どもたちが地域の歴史や文化を知る機会の充実に寄与

活用

全国各地で「学校資料」を使った授業が実践され、地域教材の一つとして利用されている
長野県松本市 6年社会科「崇教館から開智学校へ」（全5時間）
神奈川県横浜市 新学習指導要領に対応した学校内歴史資料室の取組

他府県の先進的な事例や講師を紹介し、教材や指導案づくりを共同で行います



他府県の先進的な実践や取組を参考にしながら、教育資料・歴史資料としての「学校資料」を残すことができる土台（仕組み）づくりをしていただきたい

④ 高知県の「学校資料」 その保存と活用を図るために（提案）

提案1) 「学校資料」の保存・管理場所

「学校資料」を適切に保存・管理するための課題 ⇒保存スペース、個人情報保護、耐震、温湿度管理等

特に市町村立学校は、学校単位で適切に保存・管理をしていくことが難しい

1. 校舎内に「学校資料室」を設置し、日常的に学校史に触れられる環境を
2. 市町村内に残る休廃校を活用し、収蔵・公開する「学校資料館」に



提案2) 「学校資料館」から「地域資料館」へ

休廃校の新しい利活用方法としての「**地域資料館**」へ

土佐町旧森小学校

青木幹勇記念館と土佐町民具資料館を併設 地域の文化拠点に

旧大柝高等学校

高知県立歴史民俗資料館が収集した数千点の民具を保管 毎年県民に一般公開

室戸市旧椎名小学校

廃校水族館 残されていた教具（OHPや跳び箱）を水槽に活用

休廃校・地域資料館
の連携で観光振興も
(休廃校施設を巡る
スタンプラリーetc)

休廃校を「学校資料」だけでなく、「**地域資料**」を未来へ残す収蔵庫(資料館)へ



休廃校を地域文化の集落活動センターに ⇒地域の文化拠点としての「**地域資料館**」

スタートした新『高知県史』の編纂事業でも、「近現代史」「教育史」の執筆に学校や地域の資料が必要

「学校資料館」「地域資料館」に学校や地域の資料が収蔵されるようになれば、その資料を調査し、これを活用した地域の歴史講座なども行い、地域文化振興のためのお手伝いができます

学校資料を残すために・・・

自治体で取り組む

1. 通常の規程とは別に「学校資料を残す」規程・仕組み
2. 保管場所（休廃校等利用）の確保 学校→保管場所へ

学校で残す

1. その学校ならではの学びや教育活動が分かる資料
2. 記念誌の掲載資料となるような情報
3. 地域の歴史や産業、魅力が分かる学習資料

地域にお願い

1. 保存と活用に関する協力・ボランティアを
2. 家庭に眠る学校資料の提供を